

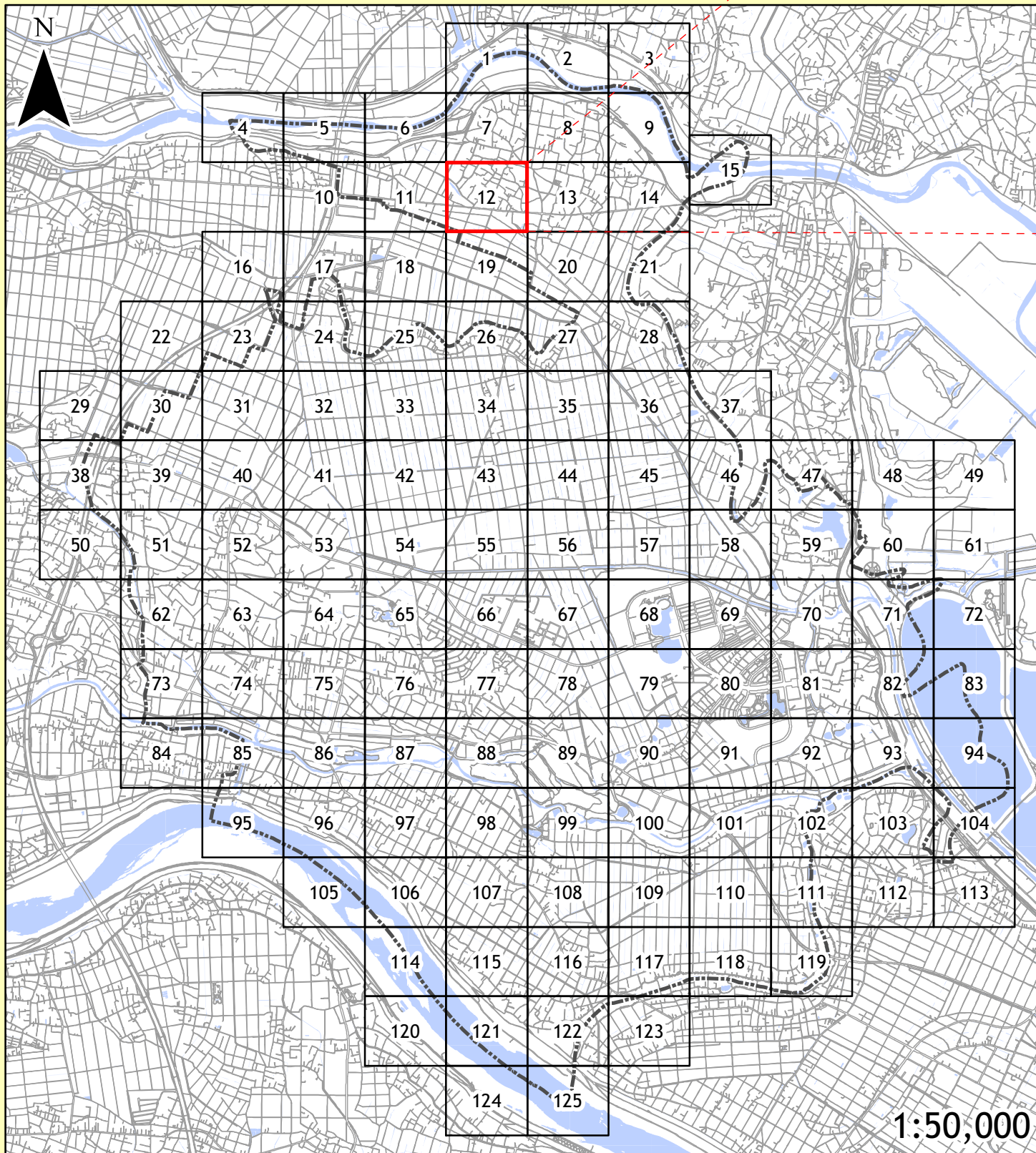
板倉町詳細版ハザードマップ<手引き>

はじめに

- ◎近年、全国的に台風や豪雨などによる風水害が多発しています。災害に対しては、日頃の備えが重要です。町では、風水害に備え、町民の皆さまが避難行動を考える際の指標となる「詳細版ハザードマップ」を作成しました。ご自宅や職場がどのような状況にあるかを確認し、ご自身やご家族の安全を確保してください。
- ◎詳細版ハザードマップは、「手引き（本紙）」と「個別図」で構成されています。詳細版ハザードマップの使い方や見方は、「手引き」で確認してください。

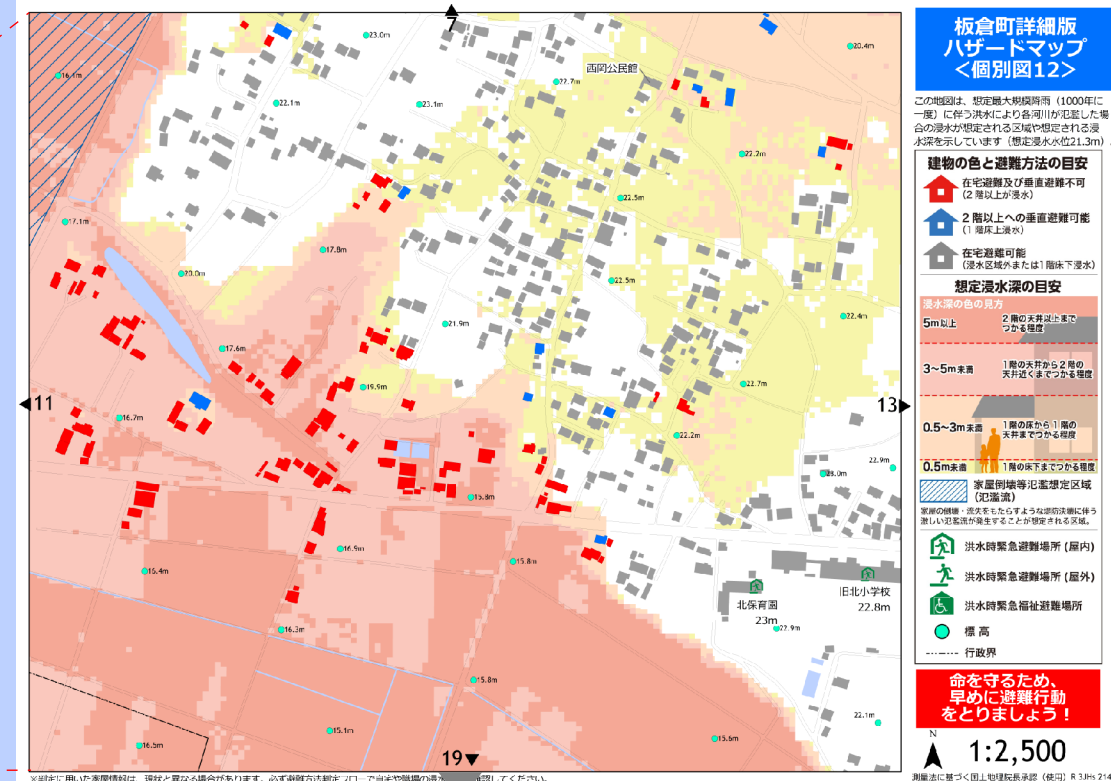
詳細版ハザードマップの使い方

①ご自宅や職場はどの図面番号に含まれますか？



測量法に基づく国土地理院長承認 (使用) R 3JHs 214

②選択した番号の図面番号を開きましょう。例…図面番号12



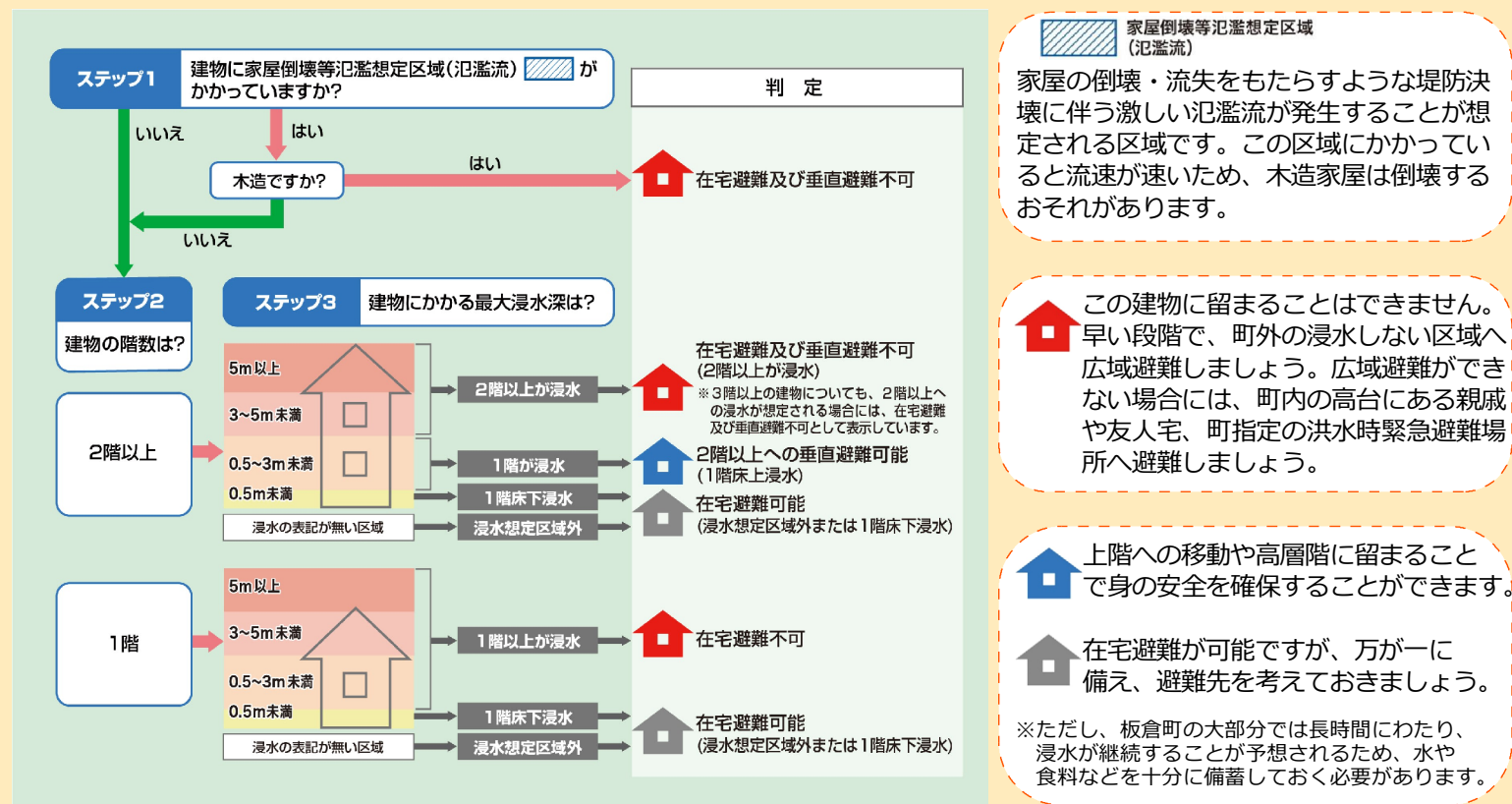
隣接する図面番号です。気になる場所があるかたは、確認しましょう。

※浸水想定区域図の全体図は、板倉町防災マップや、町のホームページを確認しましょう。

- 避難方法を考えてみましょう。建物の色は、浸水深・建物の階数・構造を基に判定したものです。詳しくは③避難方法の判定フローを確認しましょう。
- 自宅や職場にかかっている浸水深の色や、建物の高さとの関係性を確認しましょう。
- 自宅や職場周辺を確認し、
・避難可能な避難場所
・危険な避難路の有無を把握しましょう。

③避難方法の判定フローを確認しましょう。

フローをたどり、避難方法を確認しましょう。詳細版ハザードマップでは、下の判定フローに従い、建物の避難方法を判定しました。結果は個別図を確認してください。



家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
家屋の倒壊・流失をもたらすような堤防決壊に伴う激しい氾濫流が発生することが想定される区域です。この区域にかかっていると流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります。

在宅避難及び垂直避難不可
この建物に留まることはできません。早い段階で、町外の浸水しない区域へ広域避難しましょう。広域避難ができない場合には、町内の高台にある親戚や友人宅、町指定の洪水時緊急避難場所へ避難しましょう。

在宅避難可能
上階への移動や高層階に留まることで身の安全を確保することができます。
在宅避難が可能ですが、万が一に備え、避難先を考えておきましょう。
※ただし、板倉町の大部分では長時間にわたり、浸水が継続することが予想されるため、水や食料などを十分に備蓄しておく必要があります。

※判定に用いた建物の階数・構造等の情報は、現状と異なる場合があります。必ず、想定される浸水深をご確認ください。

命を守るため、早めに避難行動をとりましょう！ 令和3年8月 板倉町総務課安全安心係